

巻頭写真 青森市, 三内丸山遺跡第6 鉄塔地区の模式断面とニワトコ属主体種実遺体群
Standard outcrop at the Dai-roku-tettou area of the Sannai-maruyama site and an assemblage of
Sambucus fruits

三内丸山遺跡第6 鉄塔地区は,ここに生活した人々の生業に関する資料を埋蔵する重要な調査地区である。遺跡の北西部,台地の斜面部に位置している。三内丸山層の全部層が揃っており,とくに人為的堆積物からなる下部層は,人工遺物や動物・植物遺体群を多量に含む廃棄物層として捉えられている(図1)。下部層は人為的に急速に被覆され,斜面下部では水はけの悪い湿地的な環境であったため,廃棄物の保存状態が良好である。下部層の下半部には円筒下層b式土器が密集し,土器塚と呼ぶべき産出状態を呈する層準がある。また,この土器塚に伴って大量のニワトコ属を主体とする種実遺体群が検出される(図2)。この種実遺体群はまさに種実のみからなり,無機物を伴わない。(辻 誠一郎 Sei-ichiro Tsuji)



図1 台地斜面部の模式断面。



図2 下部層に挟在するニワトコ属主体種実遺体群。